

公的医療機関等 2025 プランについて（地域医療構想関係部分抜粋）

名古屋第二赤十字病院
<p>【地域において今後担うべき役割】（P39、P40）</p> <p>現在は地域の急性期医療を担う基幹病院として、救急医療、高度専門医療、災害医療及び地域の中核病院としての医療を提供している。</p> <p>その中でも、特に救急医療と地域医療の促進が最重点項目であると考え。救急医療に関しては、今後も継続して 24 時間 365 日の診療体制を強化し、重症で入院・手術の必要な二次・三次救急患者を中心に患者の受け入れを行っていく。</p> <p>また、地域医療に関しては、重症な患者を受け入れるためには、症状の安定した患者を回復期又は療養型病院への転院がスムーズでなければならない。その目的を達成するため、当院の地域医療連携センターの体制を更に強化して、地域の医療機関や介護施設などと更に連携を深めていきたい。</p>
<p>重点項目</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域医療構想における高度急性期・急性期病院としての位置付けの確保 2. 医療の質向上と連携強化による、地域からの信頼度のアップ 3. 赤十字病院としての広範囲な医療活動（医師派遣や災害対応） 4. 健全経営の継続と優秀な医療人の確保と育成
<p><地域医療支援病院としての地域完結型医療の推進></p> <p>当院は地域医療支援病院、地域における急性期病院としての機能を高め、地域の医療機関とともに連携を強化し患者中心のシームレスな医療を提供する。地域医療ネットワークを確立し、地域の病院・診療所等から信頼される病院を目指す。</p> <p>紹介患者への医療提供、かかりつけ医への逆紹介や入院患者の逆紹介をスムーズに行うために、地域医療連携センターの体制強化に努めるとともに、IT を効果的に導入し業務の合理化を行う。</p> <p><退院、転院、在宅支援の推進></p> <p>2016 年度から、入院から退院までの患者の流れを一貫して管理し入院前から患者の抱える諸問題に早期に対処や支援するため患者支援センターを立ち上げた。患者が安心して自宅や地域の医療機関での療養やリハビリに移行できるよう入院当初から支援している。(2016 年度全退院患者数 23,839 名、うち転院患者数 2,520 名実績) 退院・転院支援の早期介入のため退院支援室、各診療科、各病棟との情報の共有と患者（患者家族）がいつでも相談しやすい環境とアナウンスを推進する。在宅支援は早期退院・転院と患者（家族）の安心、信頼を得るためには重要である。また、地域連携パスをさらに推進し、医療機能の分化、病診・病病連携の強化に繋げる。5 大疾病パスだけにこだわらず、連携可能な疾病についてはパス化を検討していく。</p> <p><救命救急センターの体制強化></p> <p>現在の救命救急センターの体制を維持するには、専任医師、専任看護師の安定的な人材確保と教育体制が重要である。二次・三次救急患者と高齢者が増加すると予測しており、より高度で専門的な知識が要求される。</p>

<がん診療の推進>

当院は、地域がん診療連携拠点病院に指定されている。がん患者の化学療法も外来中心となり、外来化学療法センターの役割は重要かつ重症患者を扱う割合が高くなっている。医師をはじめ、がん専門看護師、薬剤師が協力し、より安全で安心な医療を提供する。また、地域の住民へ、『がん治療市民公開講座』などを開催し、最新の情報、治療方法などを提供する。

<地域での緩和ケア体制の充実>

患者（家族）からの緩和ケア医療に対する関心は非常に高いが、地域において緩和ケア（緩和ケア病床）の充実した病院は少ない。高齢化やがん患者の増加対応には、急性期病院にとっても重要となる。在宅医療への橋渡しの意味合いも強く、在宅医療機関や緩和ケア病床を有する病院やホスピスとの連携、緊急入院先の病院として協力していきたい。

<手術室の運営体制変更>

高度急性期医療を提供していくためには、緊急対応の手術室を確保しつつ予定手術も実施することのできる手術室とスタッフの確保が重要である。手術室が増設できない場合は、土日祝日を含む休日の手術実施に伴う医師、麻酔医とスタッフの増員は避けられない。近い将来に向けて、手術室の運営体制の検討を開始する。

<国際医療救援・国内医療救援の推進>

国内・国外の災害時における医療救護活動は赤十字病院としての使命であるだけでなく、当院はその中でも、日本赤十字社国際医療救援拠点病院・愛知県災害拠点病院に指定されており、その役割と機能を発揮できる体制を常時整えていなければならない。

職員一人一人のスキルアップをはじめ、実践的な訓練や地域住民への啓蒙活動や救急法の普及活動を強化していく。

【今後持つべき病床機能】（P40）

地域の中核病院として、現在の病床機能と病床数を維持していく。

【今後の方針】（P41）

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	635	→	635
急性期	175		175
回復期	0		0
慢性期	0		0
(合計)	810		810

【その他の数値目標】（P29）

医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率 : 90%
- ・ 手術室稼働数 : 年間9,300件
- ・ 紹介率 : 80%
- ・ 逆紹介率 : 110%
- ・ 平均在院日数 : 10日
- ・ 新規入院患者数 : 73人/日

